2026年
1月 みやま
第332号

病院理念
『患者さまの不安をとること』
当院の基本方針
「地域に根ざした安心できる医療」
「精神科医療の充実」
「老人医療」医療と福祉の結合

医療法人社団光生会　平川病院
〔ホームページ〕http://www.hirakawa.or.jp/

後列左より　堀江事務部長・真島看護部長・村田診療協力部次長
前列左より　河合副院長・平川院長・宮田副院長

新年、明けましておめでとうございます

院長　平川 淳一

年をとってくると、1年が本当に早く感じます。昨年は、2025問題として団塊世代が75歳を超え、多くの救急患者が発生し救急車が足りなくなる、街にも認知症患者の徘徊者が増え混乱するというような想定もあり、国も都も対策協議会などを立ち上げ対応策を作成してきましたが、まだまだ未完成のうちに2025年が終わってしまった印象です。しかし、これからが本番だと思います。

平川病院では、今年からAIを駆使し、医療スタッフの仕事の効率化を図り、ケアに時間をかけられる体制を作っていく方針としました。平川病院をご利用いただく皆様に安心していただけるよう努力をして参りますので、今年もよろしくお願いします。

【表紙】院長あいさつ　【P２】令和８年 病院標語について　【P３】作業療法科による『クリスマス会』開催報告　【P４】大人の発達障害の講演会に参加して　【P５】認知症疾患医療センターの動き　【P６】八王子市民医学講座について・編集後記

令和８年　平川病院　標語

当院では毎年、全職員から「標語」を募り、最優秀作に選ばれた標語はその年の病院標語として採用されます。今年の受賞作を紹介します。

～最優秀賞～

心には　義務感よりも使命感

リハビリテーション科　神山　公身

～優秀賞～

「言葉にできない」気持ちを気づき寄り添う看護

看護部　AX 病棟　木村　恵子

学びを深めて笑顔につなぐ、プロの看護へ

看護部　AX 病棟　モータジン　アウン

ひとりじゃない、ここから始まる回復

看護部　A2 病棟　趙　純華

患者様の笑顔へのお手伝い

事務部　医事課　古谷　たまえ

受賞者と院長

今年もやりました！クリスマス会

作業療法科　作業療法士　岡本 晃宜

皆様、2025年のクリスマスはどう過ごされましたでしょうか。作業療法科ではクリスマス会を開催し、患者様と職員で賑やかに過ごしました。例年ビンゴ大会を行っており、もうさすがに患者様も飽きてきたかなと思っていましたが、今年も「ビンゴやりたい！」と多数のご意見を頂き、ビンゴ大会が開催されました。

当日はウォーミングアップとしてクリスマスの名曲でのイントロクイズから始まりました。『山下達郎』、『ユーミン』のワードで思い浮かぶクリスマスソングがありますよね。その2曲は患者様が即答していましたが、なかなか答えられなかったのが『あわてんぼうのサンタクロース』です。皆様『あわてんぼうのサンタクロース』のイントロ、思い浮かびますでしょうか。私は全くわかりませんでした。気になる方は聴いてみてください。

さて、イントロクイズが幕を閉じると、メインのビンゴ大会です。OT科のビンゴは数字の代わりに冬にちなんだ単語を使います。クリスマス会の前週には、ホワイトボードに70個ほど冬のワードを患者様が書いて下さり、その単語の中には『スタッドレスタイヤ』、『ヒートテック』等、なんとかひねり出して下さったのだろうなと思う単語や『キノコパスタ』等、ぎりぎり冬と捉えられるような、捉えられないようなユニークな単語も挙げていただきました。ビンゴ中には「〇〇さんここ丸つけてないよ」「〇〇さんリーチだね」と声を掛けあい、個人戦とは言いつつも患者様同士が協力しあって取り組む姿勢を目の当たりにし、思いやりのある方々が沢山いることを改めて知る機会にもなりました。ある患者様は「マルゲリータこい！マルゲリータ！」とピザでも注文しているのかと思いましたが、『マルゲリータ』の単語が来ればビンゴになる患者様でした。見事ビンゴを獲得した患者様には、日ごろの労いも込めて景品をご用意しました。私個人的には、歯ブラシスタンドの需要が高いと予測し、かわいらしいキャラクターの商品を多めに用意しましたが、全く人気がありませんでした。残念です。

OT科では、ADL・IADL、コミュニケーション能力等を評価する専門的なプログラムや『周りの人たちと楽しい時間を過ごす』事を目的としたクリスマス会等、様々なプログラムを行っております。患者様一人一人の生活が生き生きとしたものになるよう、関わらせていただきます。今後ともよろしくお願いいたします。

景品の歯ブラシスタンド

大人の発達障害の講演会に参加して

地域生活支援科　看護師　目代　利絵

2025年11月8日（土）に渡部洋実医師による「大人の発達障害理解と支援」についての講演会があり、発達障害で当院通院中の患者様の家族をはじめ、当院職員を合わせて約30名の参加でした。

発達障害と言うと真っ先に浮かぶのは小児科、児童精神科というイメージでしたが、2004年以降、発達障害者支援法から発達障害の認知が広まり、成人の発達障害の診断を希望する人達が増えています。

当日の講演会では、発達障害は「脳の発達の偏りによる機能不全」として、代表的な自閉症スペクトラム症と注意欠損多動症の基礎知識を取り上げていました。また、知的障害の原因は脳障害がないものと明らかな疾患や外傷によるものがあり、学習障害は単に勉強が出来ないのではなく、読字障害、書字障害、算数障害の3種類に分類があることなどの講義がありました。

八王子市の取り組みへの協力として、平川病院が保健所講演会等を通した顔の見える関係づくりを構築するとともに、市長・市議会議員・市担当部署との繰り返しの意見交換等が紹介されました。その他、独自に「八王子市民のための発達障害支援総合ポータルサイト」を制作し、発達障害の普及活動に取り組んでいることも紹介されていました。

発達障害に関して効率的に広く情報を周知し、支援機関・施設との情報を共有する等の地域貢献についての話題もありました。

今回の講演会に参加して、早期治療の大事さや周囲の理解は勿論、その人らしく生活が送るためには地域や家族の支援も大切だと思いました。

そのためには、その人の出来るにフォーカスを向け、伸ばしていくことも地域や家族の支援が重要です。

当科の訪問看護やデイケアの発達障害プログラムでは個々の課題に取り組み、問題点を知ることで、社会生活をその人らしく送れるよう支援しています。

訪問看護担当職員として、日常生活のアドバイスや家族の悩みを聞く事も大切だと感じました。家族の想いや悩み、社会の関わりを知る事が出来、職員にとり、とても有意義な講演会でした。

渡部医師による講演風景

当院・災害対策委員会とコラボ研修を行いました！

心理療法科　科長　公認心理師　淵上 奈緒子

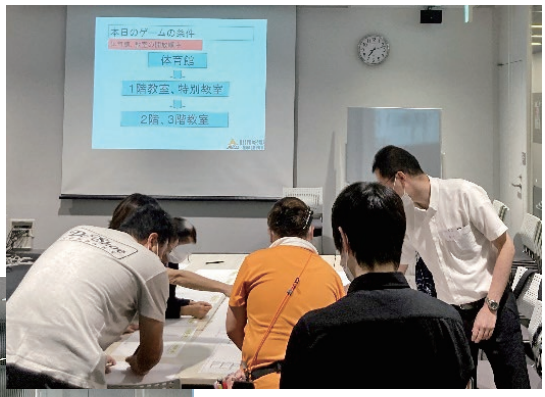
2026年が始まりました。本年も、どうぞよろしくお願いいたします。

私たち南多摩医療圏認知症疾患医療センターとしての活動の一つに、月例開催している事例検討会があります。「認知症について多職種で考える」のテーマのもと、認知症治療・支援の事例を、地域のさまざまな関係機関の多職種の皆さまと共に検討する目的で行っています。…と言いつつ、事例提供が予定できない際もあり、そういう時には当センターのメンバーから話題提供させていただくこともあります。

そんな訳で昨年10月、私が担当の回に、かねてより温めていた企画でもあった、『避難所運営ゲームHUG（ハグ）』を用いたグループワークを実施しました。このHUGは避難所運営を皆で考えるための一つのアプローチとして静岡県が開発したゲームで、避難者の年齢・性別、国籍、それぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所の体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくのかを模擬体験するゲームです（『避難所HUG 取り扱い説明書』より引用）。

当日はゲームの前に、まず当院の災害対策委員会のメンバーより、ミニレクチャーとして『医療・介護・福祉職と災害対策』について話題提供させていただきました。「認知症と災害対策」についての説明では、発災時の避難生活において認知症の人とそのご家族が抱える課題や、周囲の人々に求められる支援や理解についても取り上げられました。

そして、いよいよグループに分かれてのHUGの実施です。ゲームの内容や当日の様子はネタバレにもなるのでここでは紹介いたしませんが、実施中はさながら本当に避難所運営の現場にいるかのような盛り上がり（もしくは負い詰まり？）を見せていました。そして終了後の感想としては「迅速な判断や決断が迫られる現場の緊迫感が経験できたが、疲れた…」「もう一度チャレンジしたい！」という声が聞かかれました。



2年前の元旦に起きた能登半島地震もまだ記憶に新しい中、昨年12月には青森県東方沖地震…と世界有数の地震国に暮らす私たちにとって、災害対策は“自分ごと”に他なりません。災害はいつ・どこで起こるかわからないからこそ、平時から皆で話し合ったり訓練を重ねていくことの大切さをあらためて実感する機会となりました。

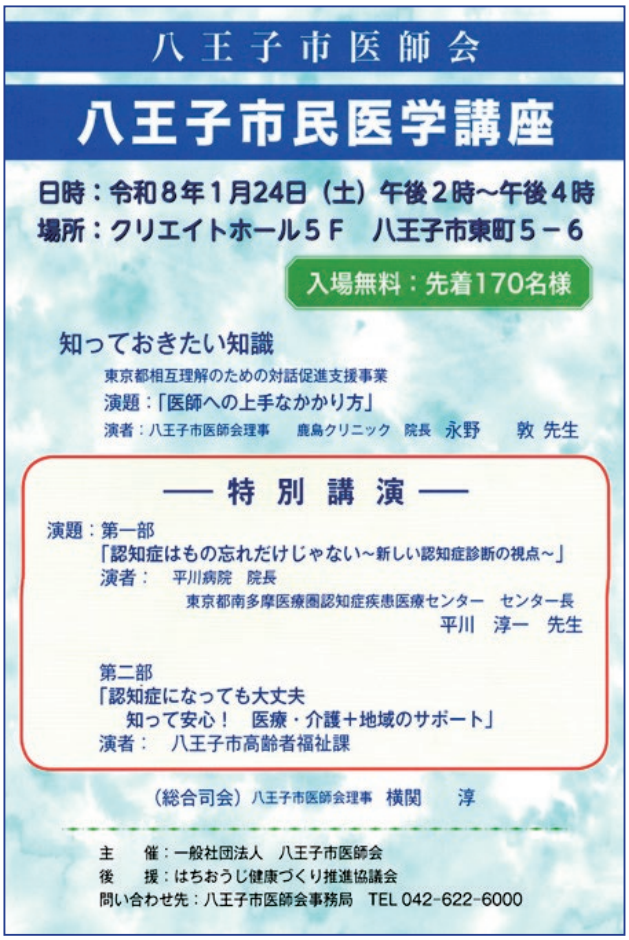
1月24日に八王子市医師会主催の『八王子市民医学講座』が開催されます

～ 特別講演のテーマは認知症　平川　淳一院長と八王子市高齢者福祉課がコラボし、認知症の診断と診断後支援についてお話します ～

認知症疾患医療センター　センター長代理　椎名 貴恵

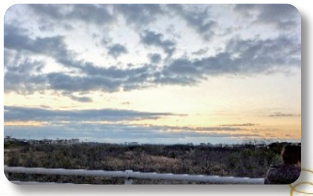
八王子市医師会が開催する八王子市民医学講座の特別講演では毎年、様々なテーマが取り上げられ、今年度は認知症についてのお話しです。認知症という病気を知っていただくとともに、八王子市の支援体制についてお伝えするため、第一部に平川淳一院長が「認知症はもの忘れだけじゃない～新しい認知症診断の視点～」と題し、認知症という病気と診断について、第二部に八王子市役所高齢者福祉課が「認知症になっても大丈夫　知って安心！医療・介護＋地域のサポート」と題し、診断前からのそなえや診断後の支援についてお話する二部構成になっています。

人生100年時代、誰もが認知症になる可能性があると言われています。「認知症への理解と備えが広がり、認知症の人と共に尊厳と希望をもって暮らしている八王子（八王子市高齢者計画・第9期介護保険事業計画）」を目指す医療と介護と地域のサポートについてのお話をぜひ聴きに来てください。



編集後記

新たな年の始まり、2026年の干支は『丙午（ひのえうま）』。古くから、火の力を表し、“物事が一気に動きやすい年”と言われています。医療業界にとっても今年は2年に1度の診療報酬改定の年にあたり、大きく動き出す1年になりそうな気配。そして個人的にも人生初となる元日勤務をこなし、勢いに乗りたいところです。出勤時には朝焼けを横目に見ながら、新年祈願。良い年でありますようにと願うばかりです。本年も広報誌『みやま』を宜しくお願い致します。



医療法人社団光生会 平川病院
東京都八王子市美山町１０７６
電 話 ０４２－６５１－３１３１
FAX ０４２－６５１－３１３３
編集　平川病院　広報委員会
ご意見ご感想はこちらへお願いします
kouhou@hhsp1966.jp

HIRAKAWA HOSPITAL